

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	① 共通教科・科目を中心に、グローバル社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成し、新学習指導要領に対応できる教育課程を編成する。 ② 思考力・判断力・表現力の育成など「学力の3要素」を取り入れた授業改善に組織的に取り組む。	① グローバル人材育成と進路実現に向けた、平成30年度からの教育課程を策定する。 ② グローバル人材育成のための指導計画をすべての教科で位置付け、思考力・判断力・表現力を育てる授業改善を進める。	① 新たな教育課程策定の意義・目的を職員間で共有し、在校生・保護者にも理解を得られるよう働きかける。 ② 主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善に取り組む。	① 次年度の年間指導計画や教育計画に新たな教育課程の意義・目的が反映されたか。 ② 生徒による授業評価やグローバル教育アンケートにおいて、授業に意欲的に取り組み、生徒自身が活動する授業がなされたかに対するポイントが高かったか。	① 特色を活かした平成30年度生の新教育課程を策定し、28、29年度生についても編成を見直した。 ② 生徒による授業評価では、授業に意欲的に取り組んだと回答した生徒、生徒自身が活動する授業であったと評価した生徒の割合は、どちらも高かった。	① 平成30年度は新たに策定した新教育課程の初年度であり、検証を意識した実践に努める。 ② 新学習指導要領に盛り込まれている「円滑な中高の接続と指導方法」について研修を設定するなど、引き続き組織的に授業改善に取り組んでいく。	① 特色を生かしたグローバル人材を育成する仕組みは着実に定着している。 ② 講義型の授業から双方向型の授業への転換がなされている。小中学校での取り組みと連動しているので連携が必要である。	① グローバル教育推進は確実に定着したが、活動の受け皿の不足が喫緊の課題である。 ② 主体的、対話的で深い学びを意識した授業改善が進んだ。今後は高大接続を見据えた小中学校との連携が一層望まれる。	① 英検2級取得率を目標値に近づける指導や短期海外研修の実施などを検討し、特色の維持・推進を図る。 ② 授業改善研修を継続し、小学校の教員が高校の授業を参観できるように研修など先を見据えた取組も行う。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	① 基本的な生活習慣を確立し、生徒の規範意識の向上を図る。 ② 部活動と学習の両立を目指し、部活動の入部率をさらに高める。	① 交通安全を広く保護者にも理解を求め、協働して安全教育を推進する。 ② 部活動の活性化に向け、活動環境を向上させる。	① 通学中の事故防止や交通マナー向上に向けた啓発を保護者やHR活動を通して推進する。 ② 部活動全般における課題を調査し、改善に努める。	① 通学中の事故や住民からの苦情件数が減少したか。 ② 生徒の部活動に対する満足度が向上したか。	① 生徒の交通安全に関する理解は進んだが、通学に関する苦情・事故は減少していない。 ② 部活動への入部率は8割を超え、定着率も9割となった。	① 交通マナーに関する意識などに一部課題を残しており地道な指導を継続する。 ② 部長会を活用して、活動環境のさらなる改善を目指し、部活動の活性化を図る。	① 事故後の対応などに交通に関する指導の一定の成果がみられる。 ② 部活動についてはその特性と意義を鑑み外部コーチの導入も視野に入れて推進する。	① 交通マナーを守り、万一の事故への対応等に関する指導の成果は上がった。 ② 部活動加入者も多く、活発な活動をしており今後も活動の環境整備推進を継続する。	① 指導の行き届かない一部の生徒に注意喚起しながら交通マナーに関する指導を続ける。 ② 外部コーチを適切に活用して環境整備を進める。
3 進路指導・支援	① 3年間を見通したきめ細やかなキャリアガイダンスにより、生徒一人ひとりの多様な職業観を育成する。 ② 希望する上級学校への進路を、生徒全員が実現する。	① 生徒一人ひとりへのキャリアガイダンスを充実させ、希望する進路を実現させる。	① 総合学習や進路説明会、進路通信など生徒・保護者に向けた情報発信を充実させる。 ② 生徒へのサポート体制を整え、学校での自学自習時間を増やす。	① 生徒アンケートにおいて「キャリア教育を受けた事で成長できた。」や「夢や希望を持った。」生徒の割合が70%を越えたか。 ② 学校で自学学習する生徒が増えたか。	① 3年生に対して実施したアンケートにおいて「キャリア教育を受けた事で成長できた」と答えた生徒の割合は73%であった。 ② 大学等の過去問題集を充実させ、自習室の照明を明るくするなど、学習環境を整備した結果、集中して学習する生徒が増えている。	① 本校の特色であるグローバル教育とキャリア教育を一体化させ、体系的に総合的な学習の時間を展開することで、生徒が夢や希望を持って学校生活を送れるよう支援する。 ② 自習室の過去問題集など、書籍管理を再考し、一層の学習環境の整備を進める。	① キャリアノートによる振り返りは大変意義ある活動である。域の連携によるインタビューを推進すべきである。 ② 自習室は大変良く活用され、整備も行き届いている。	① 進学実績は年々上昇しており、生徒や保護者の意識も高まっているが、今後は社会に出ることを見据えた進路指導も充実させる。 ② 自習室は活発に活用されており自学自習の姿勢は拡大しつつあるが、過去問題集の活用方法に課題が残っている。	① キャリアノートによる記録・振り返りへの取組は、継続していくべき活動である。 ② 過去問題集を充実させ、禁帯出の徹底を指導する。また各種設備のメンテナンスに配慮する。

4	地域等との協働	<p>① 近隣の学校や自治会と防災や行事における連携を深め、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを進める。</p> <p>② P T Aや同窓会との連携を密にし、外部人材や教育力の活用を進める。</p>	<p>① 近隣の学校や自治会と連携した防災訓練を実施し、連携を深める。</p> <p>② P T Aや同窓会との連携を深め、交通安全や部活動の活性化を推進する。</p>	<p>① 本校実施の宿泊訓練に地域の方々に参加していただき、防災時の課題を共有する。</p> <p>② P T Aの交通安全研究発表会に向けた取組を進め、同窓会による部活サポートを実現させる。</p>	<p>① 宿泊訓練アンケートで、防災意識が高まった生徒が80%を越えたか。</p> <p>② P T Aや同窓会との連携が深まったと感じる生徒や職員、それぞれの関係者の割合が増加したか。</p>	<p>① 宿泊防災訓練後に実施した記述アンケートから、多くの生徒の防災意識が高まったことが窺える。</p> <p>② P T Aや同窓会と連携し、グローバル教育の推進に取り組んだ結果、連携が深まったと感じる生徒職員の割合が増加した。</p>	<p>① 引き続き地域自治会との連携を深め、自助・共助の精神を養う。</p> <p>② P T A本部や同窓会役員と生徒会本部の生徒との意見交換の機会を引き続き設定し、協力体制の拡充を図る。</p>	<p>① 元気で明るく生徒が多連関で行事など以上連携に活発に活動できた。一方での声かきも薄い生徒もいる。</p> <p>② P T A・同窓会は円滑に活動がわかれた。職員との協力連携を深め、生徒を支援する環境を整備したい。</p>	<p>① 宿泊防災訓練や自治会行事などにおいて、地域連携が一層活発に進んでいる。今後の継続が望まれる。</p> <p>② P T Aの活動は順調に行われているが、同窓会による部活サポートについては具体的には実現していない。</p>	<p>① 地域自治会とのつながりを継続・発展させ、防災意識が高まる取組を検討する。</p> <p>② 同窓会による部活動サポートについて具体的内容を検討する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 本校での課題について職員全体で積極的に取り組み、協働して課題解決に取り組む。</p> <p>② 事故防止に対する意識を高く持ち、職員が連携して事故を防ぐ体制を整える事故・不祥事0を達成する。</p>	<p>① 校内の働き方改革を進め、職員の健康増進に努める。</p> <p>② 職員間で連携して事故防止に努める環境を構築する。</p>	<p>① ワークシェアを意識した業務分担に努める。</p> <p>② 事故防止会議を多くの職員で分担し、防止意識を高める。</p>	<p>① 職員アンケートにおいて「働きやすい職場である。」と感じる職員が増加したか。</p> <p>② 事故・不祥事0を達成できたか。</p>	<p>① 衛生委員会実施のアンケートや県のストレスチェックで職場の風通しは良いが多忙感を抱える職員も多いことがわかった。</p> <p>② 職員間の連携、施設設備の管理を進め、大きな事故や不祥事もなく業務を行うことができた。</p>	<p>① 多忙感の解消と職員の健康保持をめざし、業務改善を進める。</p> <p>② 職員間の連携を深め、協力体制を確立することで、事故不祥事ゼロを継続する。</p>	<p>① 職員室等の執務環境については徐々に整備が進んでいるが、未だ改善が必要な箇所も多い。</p> <p>② 大きな事故、不祥事など無く業務を執り行っている。</p>	<p>① 職員間で課題を共有しながら共同して課題解決に取り組んだが、職員の多忙感の解消は現実的に進まない部分が多い。</p> <p>② 事故防止に関する意識の高まりなど一定の成果はあつた。今後も職員の連携により事故不祥事防止をめざす。</p>	<p>① 業務アシスタントの導入や、適切な振り分けにより多忙感の解消を目指す。</p> <p>② 日常的な職員同士の声かけなどかな問題点による体制を整備する。</p>